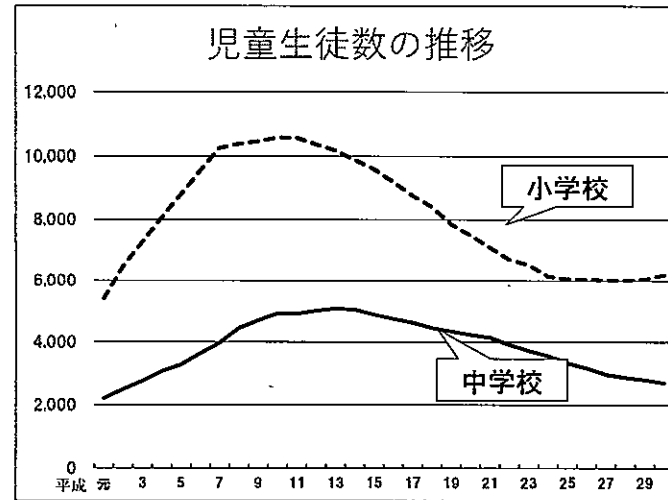


三田市立学校再編計画 【第1次計画】 説明会（上野台・八景）

三田市教育委員会

1

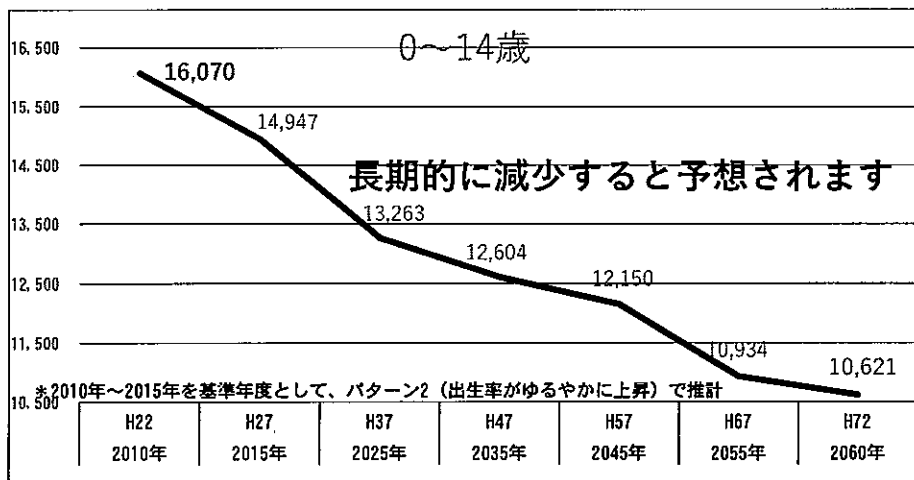
I 再編計画策定の背景 ～三田市立小中学校の現状と課題～



平成10年度の
小中学校合計
15,515人を
ピークに年々
児童生徒数が
減少していま
す。

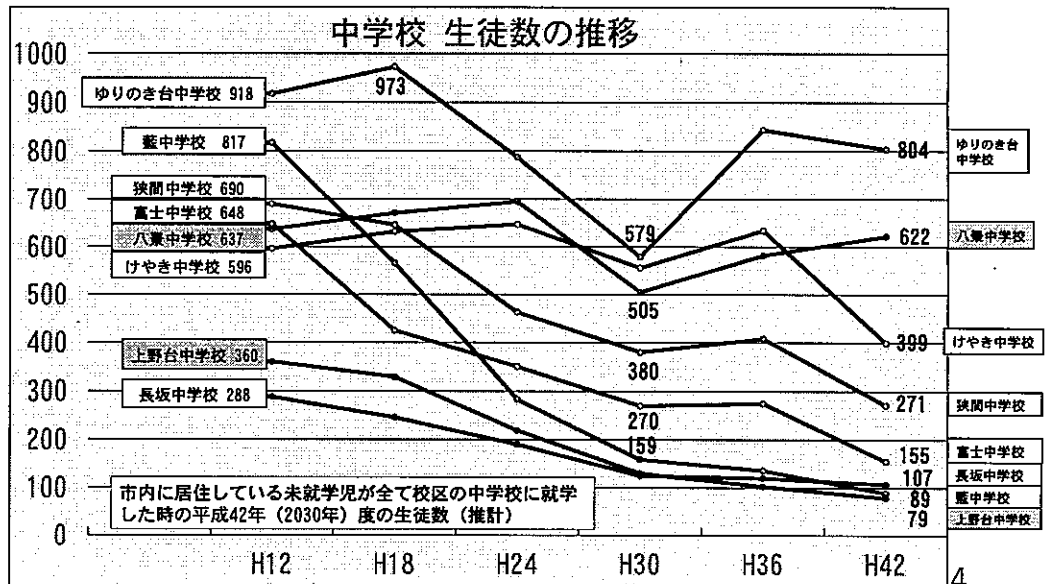
2

「三田市人口ビジョン(H28.3)」～三田市の将来人口推計より抜粋～



3

1



4

子どもたちを取り巻く環境の変化

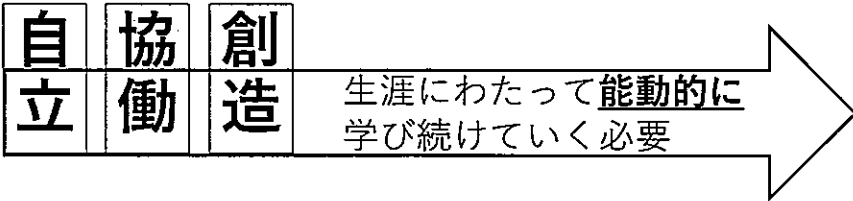
- ・グローバル化や情報通信技術の進展
- ・社会情勢の急激な変化

第2期教育振興基本計画（H29～33）

柔軟かつたくましく対応できる人物の育成

子どもたちがこれからの社会をたくましく生き抜くために

3つの基本的な基軸



II 学校再編計画策定までの経緯

学校の小規模化が進む中、子どもたちにとって「望ましい教育環境」を実現するための方策等について、「三田市立学校園のあり方審議会」で検討。

H30年3月「三田市立学校園のあり方審議会」答申

7月「三田市立学校のあり方に関する基本方針」策定



12月「三田市立学校再編計画【第1次計画】」策定

次期学習指導要領（小学校H32～、中学校H33～）

子どもたちに身につけさせたい資質・能力

- 3つの柱**
- 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性）

これからの複雑で
変化の激しい社会
の中で必要な力

- さまざまな情報や出来事を受け止める力
- 他者と一緒に生き、課題を解決していくための力
- 主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ社会をどう描くかを考える力

こうした資質・能力の育成に向け「主体的・対話的で深い学び」を視点に、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、生きる力を育むことを求めています。

III 再編計画の目的

次期学習指導要領および三田市教育振興基本計画の理念に基づき、次のような教育を推進します。

- ①様々な課題に対して柔軟かつたくましく対応する力を育成します。
- ②様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断する力を育成します。
- ③自分の良さや可能性を認識し、他者を尊重する態度を育成します。

- ④「学び合い、高め合える」環境を確保し、社会性を育成します。
- ⑤「主体的・対話的で深い学び」を視점에特色ある教育を展開します。
- ⑥学校行事や部活動等の活性化に努めます。
- ⑦免許外教科指導を解消し、より専門性の高い学習指導を推進します。



一定の学校規模を確保し、教育環境の充実を図ることで、より望ましい教育を進めることができます。

9

Ⅳ 学校再編をするにあたって

1 望ましい学校規模とその理由（基本方針より）

望ましい学校規模（学級数）については、三田市の小・中学校の現状と将来的な児童生徒数の推移及び小規模校・大規模校のメリット・デメリット等を総合的に考慮した結果、以下の通りとします。

小学校：12～18学級（各学年2～3学級）

中学校：9～18学級（各学年3～6学級）

10

<中学校> 望ましい学校規模を確保することでのメリット

- ①すべての学年でクラス替えができる。
 - 多様な出会いを保障し、豊かな人間関係をつくりやすい。
 - 人間関係の固定化を避けることができる。
 - 人間関係に課題が生じた場合に、クラス替えによって対応することが可能である。



集団生活を通して生じる様々な課題について対応する手段の1つとして、クラス替えは有効です。

11

- ②一定の教員数が確保できることで、免許外指導の課題が解消されます。

➢中学校では、全部で10教科（国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育・美術・音楽・技術・家庭）の授業を教科担任が行う。

⇒最低10名の教員が必要（ただし、学級数の増加に伴い同じ教科に複数の教員が必要となる）

12

▶兵庫県教育委員会学校規模別の教職員配置基準および免許外指導を解消するために必要な教職員数（中学校）

注：学級数は特別支援学級を含む学級数

学級数	定数	必要数	学級数	定数	必要数
1	2	10	7	12	16
2	5	10	8	14	16
3	8	10	9	15	16
4	8	10	10	17	16
5	9	10	11	18	18
6	10	14	12	19	18

（教科担任の授業時間を1週間20時間で計算）

（教員定数は、特別支援学級を含む学級数で決定されます。）

③部活動において、ある程度の部活数・部員数・顧問数が確保できる。

▶平成30年度の各中学校の部活動の状況は下記の通り。

学校名（学級数）	運動部	文化部	合計	H26との比較（▼減、△増）
長坂（5）	5	1	6	運動部が2▼
藍（6）	7	1	8	運動部が2、文化部が1▼
上野台（5）	6	1	7	運動部が2、文化部が1▼
八景（14）	12	3	15	運動部が1▼
狭間（11）	9	3	12	運動部が1▼
富士（8）	8	2	10	運動部が1、文化部が1▼
けやき台（15）	10	3	13	運動部が1△
ゆりのき台（15）	12	5	17	文化部が1▼

生徒数・学級数の減少に伴い、部活動の減少が進んでいます

特に、6学級を下回るような小規模校では、課題が大きい。

- ◆ 文化部（吹奏楽部）が1つしかなく、選択の余地がない。
- ◆ 1・2年生での活動では、合同部活動をする必要が生じている。
 - ・ H30は、長坂・けやき台（野球部）、長坂・藍（サッカー部）の2つの組み合わせで実施。
 - ・ 学校が離れているため、移動に時間がかかり、十分練習時間が取れない。学校行事等の関係で、練習日の設定が難しい。

部活動は、生徒にとって魅力ある学校のための重要な活動です

④体育大会・文化祭等の学校行事の活性化が図れる。

- 集団として多種・多様な演技や内容を工夫して行うことができる。
- 他の学年や学級の演技等を参観する機会が確保されることで、自己の取り組みを振り返ったり、他者のよいところを取り入れたりすることができる。

⇒学習意欲が高まり、教育的効果が増大することが期待できる。

⑤ある程度の教員数を確保できることから、学校運営が余裕を持って行える。

- 学年団を編成する時に、経験年数や専門性、男女比等を考慮した教職員の配置が可能となり、それを生かした指導の充実が期待できる。
- 多くの教職員が生徒に関わることから、生徒の良さを多面的に評価できるとともに、生徒が多様な価値観に触れることができる。
- ティーム・ティーチング、グループ別指導等、多様な指導方法が可能となる。

17

2 協議の手順

以上のことから、

まず課題が大きく、早急な対応が必要な中学校から再編計画を提示し、協議を進めます。

18

V 学校再編について

1 学校再編(第1次計画)の対象校について

上野台中学校と八景中学校の統合を進めます。

上野台中学校の生徒数の状況

- 平成30年5月現在、5学級(2年生が単学級)130人が在籍。そのうち、97人(約74.6%)がバス通学。最も遠い母子地区からの通学時間は、約35分。
- 平成35年度には3学級(全学年が単学級)100人となり、それ以降もゆるやかに減少すると予測。

19

八景中学校の生徒数の状況

- 平成30年5月現在、14学級505人が在籍。バス通学はなし。
- 今後も多少の増減はあるが、約600人前後の生徒数があり、適正規模(14~18学級)を維持する見込み。

上野台中学校と八景中学校の今後の生徒数・学級数の推計および両校を統合した場合の生徒数・学級数は次のページの通り。



20

上野台中学校と八景中学校の統合

	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
上野台中学校	生徒数 130	129	140	130	113	100	103	108	112	108	102	91	79	83	83	90
	学級数 5	5	6	5	4	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3
八景中学校	生徒数 505	510	570	593	615	564	582	591	605	629	633	645	622	616	605	603
	学級数 14	14	15	16	16	15	16	17	17	17	17	18	18	18	18	17
上野台・八景 統合 (統合中学校)	生徒数 635	639	710	723	728	664	685	699	717	737	735	736	701	699	688	693
	学級数 18	18	20	20	20	18	18	18	19	20	20	20	19	19	18	18

【両校を統合した場合】

一時的に適正規模をやや上回る19~20学級になりますが、その後は適正規模(18学級以下)になると予測されます。

◇再編の考え方

両校の地理的な状況

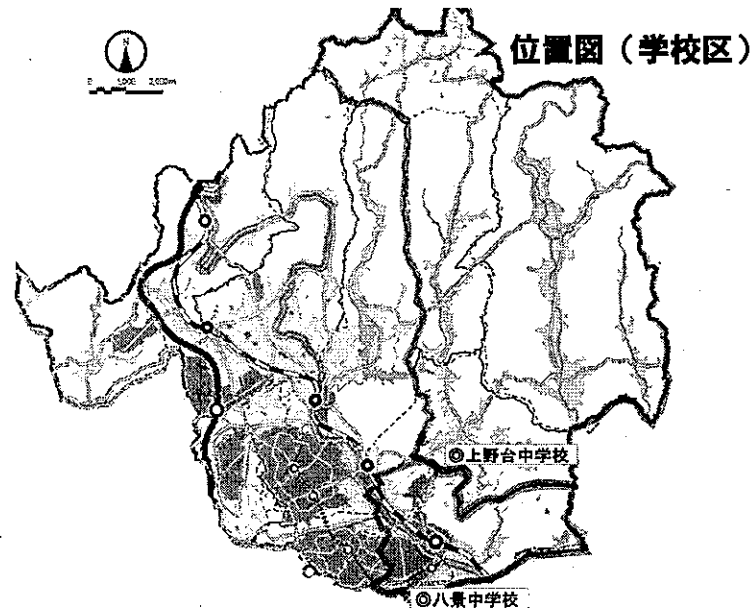
- ・ 上野台中学校は、八景・上野台中学校区の比較的中央に近い場所に位置しているが、敷地・校舎規模が小さく、700人規模の生徒の受け入れは困難である。
- ・ 八景中学校は、市の最南端にあり、国道から学校までの進入路が狭い急坂であり、地理的・地形的な課題を抱えている。

上野台中学校 (人数)	部活動名	八景中学校 (人数)
	陸上競技	69
	野球	26
	サッカー	32
15	バスケット (男)	19
13	バスケット (女)	28
13	バレー (女)	23
	卓球 (男)	31
	卓球 (女)	20
23	ソフトテニス (男)	31
14	ソフトテニス (女)	29
	ソフトボール	16
	水泳	15
12	剣道	
	柔道	22
14	吹奏楽	35
	美術	28
	家庭 (生活)	33

両校の部活動の状況(平成三十年度上半期)
*三学年が在籍した時の部員数

両校の歴史的な状況

- ・ 昭和50年に八景中学校の一部(志手原小校区、小野小校区、三輪小校区の一部(大原))が分離し、旧羽束中学校区と合併して、上野台中学校が開校した。
- ・ 開校の経緯や行政区の三輪地区が上野台中学校・八景中学校区にまたがっていること等から、上野台中学校区と八景中学校区の関係は大変深いと考えられる。



25

再 編 案

- 今後の生徒数の推移を考慮して、「上野台中学校と八景中学校の統合」を進めます。
- 両校の地理的・歴史的な状況に加え、八景中学校の生徒が多数（9割近く）を占めることから、場所は「現在の八景中学校区内」で検討します。

26

VI 今後のスケジュール

時期	内容
H31年2月～	①学校再編計画【第1次計画】について、対象となる中学校区で説明会（4カ所）を開催
H31年2月～ 3月頃	②説明会終了後、「三田市立学校再編地域協議会」の委員選出を各団体に依頼



27

時期	内容
	> 地域協議会の委員構成 <ul style="list-style-type: none"> • 小学校の保護者代表・・・各小学校区から2名以内 • 中学校の保護者代表・・・各中学校区から2名以内 • 区・自治会等地域代表・・・各小学校区から2名以内 • 再編対象校の学校長・・・各対象中学校長 • 市職員・・・若干名
H31年 2月～5月	③各地域代表の選出について、各地域で協議（5月中旬ごろまでに決定⇒教育委員会に報告）



28

H31年
5月以降～

④第1回の地域協議会の開催を調整

⑤対象となる中学校区に

「地域協議会」を設置

上野台中学校・八景中学校地域協議会



地域協議会で再編について協議

➤「地域協議会」の期間は原則2年を限度とし、その間に下記の項目について協議し、意見を取りまとめます。

- ◆学校再編の是非や時期
- ◆通学手段等に関する事項
- ◆その他、再編に関する事項

➤地域協議会で、広く保護者、地域の皆さまの意見が集約できるよう努めます。

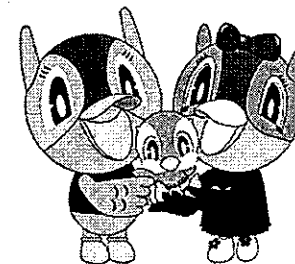
H32年度
以降～

⑥地域協議会終了後、学校再編に向けて「三田市立学校再編準備会」を設置

➤再編準備会の設置期間は、再編年度の前年までとし、その間に下記項目について協議、意見の取りまとめを予定

- ・再編の具体的なスケジュール
- ・教育環境整備（校舎改修等）、通学安全対策
- ・校名、校歌、校章、閉校式、開校式
- ・交流事業、記念行事、児童や保護者への周知など

三田の教育基本理念「子どもの夢と未来が輝くまちさんだ」の実現のために、これからも努力してまいります。



三田市教育委員会